

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社おおいし		
事業所名	グループホーム くつろぎ 1階		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	令和 3年 11月 27日	評価結果市町村受理日	令和 4年 4月 20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100768-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、いわゆる施設では無く「普通の家」という基本を大事にしており、基本的に入居されている方の自由を重要視している。危険だからと何もかも排除するのでは無く、リスクを最小限にして自由に過ごして頂くようにしている。入居者同士の些細なトラブル・朝寝坊・夜更かし・調理することによる些細な怪我・火傷等どこにでもあるようなことを恐れないようにして「泣く」「笑う」「怒る」等の当たり前の感情の表出も大切にしている。コロナ禍で外出等出来なかったが本来は外出支援に力を入れている。日常的に笑い声が多く聞かれている笑顔満載のホームと自負している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅街に位置し、ホーム前にバス停、近くには公園、コンビニ、病院、高校、中学校、幼稚園などがあり交通の便、環境に恵まれている。又、少し足を伸ばすと新釧路川河畔公園・釧路湿原など好立地に位置している。木造2階建てで、居間、食堂、台所は一体的で、大きな窓から陽が入り明るく、温・湿度が調整され、対面キッチンは会話の弾む作りとなっている。地域の一員として町内会に加入し、以前は地域の行事に参加したり、シルバー作品展に出品するなど地域との交流に努めている。又、小学校の職場見学 中学校の職場体験、高校のインターンシップを受け入れていたがコロナ禍により中止している。職員は明るく、笑顔で話やすく、利用者の平均年齢は約89歳となったが、利用者自身ができることは無理せず任せ、やりがいを見出すよう支援したり、持っている能力を引き出すようなアプローチを行って、単にケア中心ではなく、生活の充実を心がけている。利用者は、新聞を読んだり、テレビを見たり、編み物やパズルをするなど思い思いにゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲げてはいるが職員の入れ替わりが多かったのと新入職者への説明不足も否めず全員での共有には至っていない。理念の一つである「地域と共に」が希薄である。	事業所理念「明るく・楽しく・健康で・地域と共に」をフロアに掲示し、職員で共有しケアにつなげている。新入職員を中心に、ことあるごとに理解できるように指導したい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し行事等の相互参加をしていたが年々減ってきている。特にコロナ禍の2年間は皆無。但し近所の方々は日常的に声をかけ、近所のコンビニを毎日のように利用して顔なじみとなっている。	町内会に加入し、以前は地域の行事などに参加し、地域の学校や体験学習等へ協力していたが、コロナ禍により中止している。地域のコンビニを利用して挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での発信以外の発信方法が分からないのと活かし方の方法も分からないのが実情である。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者を増やせないままコロナ禍となり対面ではなく書面開催となり内容が薄くなっているのは否めない。	2カ月に1回、地域包括支援センター職員、町内会役員などが参加して開催している。入居状況、活動報告、避難訓練の報告などを行って、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族、地域の人たちが運営を見守ったり、協力者として助言するなど運営上重要な意味・役割を果たす会議として位置づけられていることから、家族の参加も期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢化・生活福祉事務所・包括支援センターとはその都度連絡をとっている。	利用者の行動問題があり、生活保護課、地域包括支援センター、警察も含め指導・助言を得て、問題解決に向けて協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中無施錠、外へ行こうとする方には止めることなく見守りさりげなく一緒に出たりしている。昨年昼夜共に多動の方がおり短期間ではあったがご家族に同意を頂き結果として拘束していたがその間も常に拘束であること、拘束はいけないことと都度周知し共有していた。	身体拘束に関する委員会を2カ月に1回開催し、会議で話し合い、職員で共有して身体拘束をしないケアに努めている。昨年、昼夜共に多動の利用者がいて短期間ではあったが家族の同意を得て拘束していたが、常に拘束であること、身体拘束はいけないことと職員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	その都度不適切ケアについては指導し、資料配布や情報共有での原因説明することで防止に努めている。職員の入れ替わりも多かったので改めて研修会を設ける必要がある。			

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人・保佐人を活用している入居者がいるが職員の理解不足もあるので学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	2名体制で説明・確認をしながら時間をかけて行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書にはホーム外の機関を明記し説明もしている。玄関の外には意見箱も設置、来訪時や電話でも受け入れ、特に来訪時には気軽に何でも話して頂ける様に声をかけて関係性の構築に努めている。	日々の会話、表情などから利用者の意見、要望を把握し、家族には「くつろぎ通信」で利用者の様子を知らせて、来訪時、電話連絡時に話しやすい雰囲気を作り意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談はしていないが、会議やさりげない会話の中からくみ取ったりして把握に努めている。中々言葉で表出出来ない職員もいるので気にかける必要がある。	管理者は職員が意見・提案を言いやすい雰囲気作りやに努め、日々の業務の中や会議などで意見や提案を聞いて運営に反映させている。シフトを組む際には職員意見を良く聞いて対応したり、掃除を外注し介護業務が優先できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当支給、労働時間や休日などの希望を出来るだけ受け入れてはいるが職員のやりがいになっているかどうかはわからない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にて外部研修には参加できていない。日常的なケアの中、会議等で様々な指導はしているが、今後は少人数で内部研修を持つことを検討する必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて出来ない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前はご本人・ご家族・介護支援専門員等から情報を得て、入居後は関わりを多く持ちより良い関係性の構築に努めている。		

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や契約時、来訪時等笑顔で丁寧に対応をし来訪しやすく話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时・契約時・入居時等によく話を把握し努め有償ボランティアやケア輸送等の利用も説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に様々なお手伝いをお願いしているが、一緒にここで生活をしていると感じて頂くためにもっと色々なことを検討する必要がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話等での状況報告、毎月の通信送付や介護日誌送付、手紙・電話等のやりとり等を通して本人と一緒に支えてもらうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやりとりを勧めている。コロナ禍なのも含めて、年々遠のいている。	コロナ禍で知人・友人の訪問はないが、電話したり手紙を出すなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には一緒に行動して頂いたり、別々に行動したりとその時々でお互いの距離の間隔を考慮しトラブルや孤立を避けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後での相談事や悩み事を受けた事もある、仏壇にお花をおくったこともある。退去時に連絡・訪問も可能なことも伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃からコミュニケーションに努め、日誌や会議、ケアプランなどで情報を共有し本人本位に検討している。	入居時の利用者、家族からの聞き取りやアセスメントから利用者の生活歴を把握し、日常の会話、しぐさ、サインなどから、個々の思いや意向を把握し職員で共有して、希望や意向に添うよう努めている。困難な場合は家族からの情報を得て本人本位に検討している。	

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集に努め、その情報を誰もがみられるようにファイルしている。入居後もご家族・知人等からの情報収集に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・飲食・排泄・睡眠・言動等を日誌に記録、申し送りノート等も活用し情報を共有しながら現状を把握しケアに繋げている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を日常的に把握することに努め、本人の言動に注視し記録に残し会議で検討している。アセスメントは介護全員でとるようにして介護計画に繋げている。	利用者、家族の意向を反映させ、職員の気づきも参考に会議等で話し合い、時には医療関係者のアドバイスをもらい、現状に即した介護計画を作成し、家族の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動・日常生活状況・ケア内容・介護者の気づき等記載しやすく工夫している。時には記入漏れもあるが、口頭での情報伝達もある。計画作成者の直接の聞き取りもあり計画へ繋げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の訪問看護の受け入れ連携をしたり、訪問美容・通院介助。介護ベッド等と本人にあったケアに取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生のインターンシップの受け入れ、児童・園児の訪問、近くの店での買い物等継続していたがコロナ禍の為出来ていないのが実情。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医継続を推奨し、訪問診療への変更に繋がれるよう支援したり、専門病院へ繋がれた例もある。	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。訪問看護師が定期的に利用者の健康管理を行っている。専門病院へ繋がれた例として、男性利用者がよく転ぶことが多くなり、複数の病院を廻り最終的に神経麻痺による転倒であることを理解し整形外科へとつなげて適切な支援に結びつけた。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の訪問看護は勿論、個別の訪問看護に状態・状況を説明、相談をし助言を受けたり、受診へ繋がれたこともある。			

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会は出来なかったが入院した場合は頻回にお見舞いにいたり、ご家族と連絡をとりあったり、病院側との情報共有に努めることを基本としている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明した状態に合わせてご家族、医療と話し合いをし、時には医師より説明をして頂いたこともある。	入居時に利用者、家族に重度化した場合における対応の指針に基づき説明し、同意を得ている。重度化した場合は、家族、医師、看護師などと話し合い、希望に添えるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの実践力が身につけているとはいえず、定期的な研修が必要と思われる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定訓練は年3回実施しているがその他の訓練はしていず訓練が必要と思われる。	火災想定訓練を年3回実施し、非常食、コンロ、ストーブ、トイレ、高吸水性ポリマーなどを備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせて対応することが基本ではあるが、職員の入れ替わりが多かったのと自身の余裕のなさから徹底されていないと思われる場面も確かにある。	一人ひとりの気持ちを大切に言葉かけは丁寧に、尊厳や誇りを損ねないように努めている。リビングで、利用者のプライバシーが損なわれそうな話がある場合は、居室で話を聞いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の情報を踏まえて選択肢を提示し本人が選択出来る様努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員不足から時には職員側の都合を優先してしまっていることもあるのが実情。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	似合う色、好きな色、体型変化等考慮して補充したりしている。			

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや巻き寿司・いなり寿司・焼きそば・お好み焼き等一緒に作ったりしている。食器拭きも決まってお願している。	利用者の希望を取り入れながら献立を作成し、利用者は能力に応じ、調理、下ごしらえ、食器拭きなどを行っている。餅つきなど季節ごとに行事を行い、キッチンカーが来てラーメンを食べながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記載をし、器を変えたり、好みのものを用意したり、嚥下状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時の歯磨きは基本出来ているが昼食後についてはご本人のペースや拒否もあり出来ていないこともある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄意を大切に考え個々に応じて声掛け案内をしている。むやみにオムツに頼らないことを基本としている。	排泄パターンを記録し、表情、動きなどから把握して、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。プライバシーを保つため「トイレに行きましょう」などの声掛けはしない。言葉を変えて排泄誘導を実施してトイレ排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供と軽運動の推奨、時には散歩で長距離を歩いたりしていた。時には薬も併用してその時々で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まっているものの捉われることなく臨機応変に対応している。断ることが多い方を外出に誘い帰宅後「暖まろう」と入浴に誘うということもあった。	週2回を基本としているが、体調等を踏まえ、いつでも入浴できるように支援している。入浴を拒む利用者には、時間を変えたり、入浴の気持ちよさを伝え対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めていない。フロアにいる方、自室にいる方等様々で室温に配慮し日中でも声掛けして休んで頂く等個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰でもが分かる様に用法や用量等をファイルしており、変更等があった時には申し送りや連絡ノートを活用し一人一人が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯干し、調理、郵便物を取りに行く等日常的に見守りながら願っている。喫煙や飲酒についても制限はあるものの禁止はしていない。		

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍と職員不足で出来ていないが基本的には外出支援に力を入れている。	コロナ禍が収束するまでは外出していない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数だが自身でお金を所持している方はいる。時折残高確認をさせて頂いている。コロナ禍にて買い物には行けてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している人もいる。電話は希望時にはかけられ、年賀状等も勧めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節ごとの飾り物の作品を貼ったり、居間や食席等の模様替えもトラブルに発展しないうちに検討したりしている。	居間、食堂、台所は一体的で、大きな窓から陽が入り明るく、温・湿度が調整され、対面キッチンには会話の弾む作りとなっている。季節に合わせた飾り物や、家具の配置換えをするなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に座られている。居間兼食堂なので食席・ソファ2脚・畳席があるが、畳席は使用する人がいず、3人掛けソファを一人で占拠したり無理やり座ろうとする人もおりトラブルが多く2人掛けソファに変更した。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた物を推奨しており、写真を飾ったり、ご家族・本人と相談しながら居室づくりをしている。	使い慣れたテレビ、冷蔵庫、家具、仏壇などを持ち込み、小物や写真を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には靴の脱ぎ履きが容易にできるよう椅子と手すりを置き自分で下駄箱より出し入れが出来るようあがりかまちを広くした経緯もある。		